



国中だより

国立第一中学校

学校だより

平成27年度1月号

1月15日発行

一中ホームページ：国立市HP→くにたちの教育→国立市立小中学校へアクセス

「実感」「感謝」「感動」

校長 黒田 宏一

例年になくとても暖かい正月だった平成28年も約2週間が過ぎました。そんな暖かさも8日頃からは徐々に冬らしい天気になり始め、始業式の際にはうっかり上履き・体育館履きを忘れてしまった生徒が寒そうに足をモジモジさせているいつもの光景も見られました。あらためまして本年もよろしくお願ひ申し上げます。

その始業式の講話で、「今年1年の目標を漢字一文字で表すと『感』である。」と話しました。

「学びに『わかった!』『できた!』という『実感』がもてる一中、仲間が互いに『感謝』し合える一中、『感動』のあふれる一中、このような一中を創りたい。またこのような1年でありたい。」

という内容です。そして、

「感謝する人間より感謝される人間を目指そう!その行動が巡り巡ってきっと自分に還ってきます。また、行事での皆さんの一生懸命な姿に皆感動します。ただそれだけではなく、学校での生活の基盤である学級の1年が終わるときに『ずっとこの学級でいたい。学級を解散したくない。』と思えるような感動的な学級を創ることができたら素晴らしいです。」

との言葉を加えました。

ところで、昨年末に国立在住でかつて中学校教師をなさっていた方(先輩)と話す機会がありました。その先生からいきなり「なぜ国立市は、市内のどの3駅にもすぐ目の前に駐輪場があるか知っているか?」と質問されたのです。「それは、一中の生徒が…」と話してくれたのが次の内容です。

今から30年位前、一中の文化祭(高校で実施しているような行事を中学校でも実施していた時期がありました)でのことです。ある学級で、市民生活における課題「駅周辺の自転車の放置(路上駐車)問題」について調査し発表しようとするのがきっかけでした。まず市内のどの場所にどれくらいの自転車が放置されているか街中を歩き調査しました。その結果を地図上に自転車の置かれているエリアとその台数を書き込みながら、その結果を元にして背景や原因、市民生活への影響、さらに改善策等を学級で議論し、これらをまとめたものを提案し発表しました。文化祭当日、たまたま見学に訪れていた国立市の職員の方の目にとまり、詳細に調査した現状・分析・提案に驚きと共に感動し、持ち帰って資料とさせてほしいとのことでした。後に国立市が駐輪場設置の計画を作成し、実現を果たしたということでした。



当時の生徒の研究発表が駐輪場設置にどの程度影響したかはともかく、市役所の方の目にとまるほどの研究をしたことに大きな意味を感じます。身の回りの生活から課題を発見し、調査活動を行いデータを集め、得られた情報・状況から分析をするという一連の学習を自分たちの力で取り組み解決を図ろうとしたことは、今求められる学習のモデルとなっているのではないのでしょうか。それは学習指導要領に、「生徒に生きる力をはぐくむ」ために「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得」とともに、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」の育成、さらに「主体的に学習に取り組む態度」を養うことが求められており、これらの要素をすべて網羅していると捉えることができるからです。

(冒頭の)始業式で生徒に話したような「わかった!」「できた!」を目指す第1段階としつつ、生徒の主体的学習にまで高められるよう、より質の高い「実感ある学び」を目指し、これまで取り組んできた問題解決的な学習の充実、交流及び共同学習の推進、授業のユニバーサルデザイン化の教員の校内研究等にさらに取り組んで参ります。

3学期は、この1年の教育活動のまとめの学期にもなります。学習指導においても成果と課題を明確にしながらその充実に努めて参ります。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。